

ごあいさつ

「Chuo Vision 2035」と中央大学の進むべき道

大学の使命は、教育、研究、社会貢献といわれますが、振り返ってみると、中央大学は、教育、研究、社会貢献を踏まえた上での人材（人財）育成を最大の使命としてきたのではないかと私は思います。

140年を遡る昔、不平等条約の是正のために近代的な法制度を構築することを目指して都心の神田に創設された英吉利法律学校は、輝かしい歴史と実学の伝統を経て、今日の中央大学となりました。難関国家試験に強く、ことに日本の法曹界では本学卒業生がその大きな割合を占めてきました。これは誇るべきことです。しかし、ただ単に弁護士や公認会計士などの資格試験の合格者数が多いということだけが中央大学の特色ではありません。

そもそも創立者の増島六一郎は、明治初期にイギリスに留学してパリスター（法廷弁護士）の資格を取得し、帰国後に三菱から錦町校舎を買って英吉利法律学校を立ち上げ、その校長を退任した後は、外国にも自分の事務所を開き、アメリカの弁護士会とも交流するなど、国際的に法律業務を行う global lawyer でした。現在の本学の教員にも国際的に活躍しているグローバル・パーソンが数多くいます。私も、法務省・JICAの法整備支援事業でカンボディアの民事訴訟法典起草を支援する仕事に携わったのは、国際的な社会貢献への思いが基礎にあったからです。地雷で足を失った多くの人々がプノンペンの中央市場で物乞いをしている姿を目撃するたびに、自分の仕事が同国の発展に些かなりとも役立つ日が将来訪れることを願いました。学生諸君には、広い視野と国際的な目標を持っていただきたいと思います。そのために役立つ国際的なプログラムを、本学はすでに多数提供しています。

また、本学は気骨ある言論人、グローバル企業の経営者、政界のリーダー、国家・地方公務員として活躍されている方々、スポーツ界の一流選手たち、さらには芸術・文化関係の著名人などを多数輩出してきました。本学卒業生（学員）のこうした幅広い活躍をみれば、本学がこの国を支える多様な人材を各界に多数送り出すことのできる総合大学であることがわかります。

本学は、2016年度から「Chuo Vision 2025」という10年計画を遂行してきました。その主要事業として、国際経営学部や国際情報学部の創設、多摩キャンパスでの多目的国際交流スペースであるグローバル・ゲートウェイや国際教育寮などの建設、新たな茗荷谷キャンパスへの法学部の移転、新駿河台キャンパスへのロースクールとビジネススクールの集約などを実現し、昨年度末には、後楽園キャンパス新1号館が竣工しました。そして、2026年度からは「Chuo Vision 2035」がスタートし、理工学部の再編による3学部化、スポーツ情報学部（仮称）の新設、経済学部の学科再編、情報農学部（仮称）の新設、グローバルX計画の推進、総合学園のあり方の探求、スポーツ振興などを進めています。中央大学の魅力と競争力をさらに向上させ、世界に存在感のある大学にするために、教職員だけでなく、卒業生の協力も得て、「Chuo Vision 2035」を着実に遂行していく所存です。



学校法人 中央大学 理事長

大村 雅彦
OMURA Masahiko

次世代を拓く「行動する知性」を育成する「さらに開かれた大学」へ

1885年に創立した中央大学は、「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神のもとに、白門を象徴する伝統と実績を140年余りにわたって築き、いつの時代にも、社会を支え、未来を拓く人材を数多く送り出してきました。この建学の精神は、10学部、大学院8研究科、専門職大学院2研究科、4附属高等学校、2附属中学校と9研究所を擁する総合大学・総合学園となった今日、多様な学問研究と幅広い実践的な教育をとおして「行動する知性」を育む、というユニバーシティメッセージに受け継がれています。

学問は常に時代とともにあり、社会の変化に適合するよう進化します。建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」は、このような学問研究の姿勢に根ざす教育観を表したものです。ここに「素」とは社会に応用できる力の素地であり、「素ヲ養フ」とは知識はもとより、さまざまな体験や人との交流の中で培われるコミュニケーション力や議論する力、的確な判断力、そして弛まず学び続ける力の涵養を伴います。

大学は、産業構造や国際情勢の変化を見通して近未来に活躍できる有為な人材を養成する枠組みのもとで、教育・研究・社会貢献活動を展開する使命が与えられています。本学では、学部の再編・新設、教育・研究の国際化やDX（デジタルトランスフォーメーション）化をはじめ、グローバル・アントレプレナーシップ教育、研究支援・高度専門職教育の強化、地域・地方との連携、生成系AI活用基盤の整備などを重要テーマに掲げ、激しい社会環境の変化を的確に捉えた改革を推進しています。2026年度に理工学部を発展的に再編して3つの理工系新学部を開設したほか、2027年度にはスポーツ情報学部（仮称）の設置および経済学部の4学科から2学科4コース制への再編、2028年度には情報農学部（仮称）の設置を構想中です。時代に即したこれらの学部教育の改革は、学際性を重視した新しい学問分野の創出を意図しています。

本学では、Society 5.0の時代に活躍できる人材を育成するため、学部教育と大学院教育を通じて、データサイエンスを重視し、グローバルな学問分野横断型の教育プログラムにも力を入れています。さらに、その学びを学内に留めることなく、海外の大学や研究機関、日本各地の産業・行政・教育機関との連携を強化し、知識を深め、知性を養う多様な機会を提供しています。これからも、地域社会の安定と発展に寄与するため、本学の豊富な人的・物的リソースを地域やさまざまなコミュニティに積極的に開放し、社会との連携や社会貢献を力強く推進していきます。確かな未来につながる学びの実現に向けて、私たちは「さらに開かれた中央大学」を目指します。



中央大学 学長

河合 久
KAWAI Hisashi

CONTENTS

	中央大学の歴史
	ごあいさつ
2	Chuo Vision 2035
4	社会をリードする中央大学 OB・OG
10	中央大学学会(同窓会)
11	ホームカミングデー／父母連絡会
12	国際連携・留学
16	学部
20	大学院
22	専門職大学院／通信教育課程
23	特色ある教育
24	新しい社会の流れに対応する教育・研究の取り組み
25	研究所
26	研究推進
28	図書館
29	法と正義の資料館・大学史資料館
30	情報環境への取り組み
31	奨学金
32	キャリアサポート
35	学生支援
36	スポーツ・文化活動
38	社会・地域貢献
40	ボランティア活動
41	SDGs／ダイバーシティの取り組み
42	多摩キャンパス
44	後楽園キャンパス
46	市ヶ谷田町キャンパス
47	茗荷谷キャンパス
48	駿河台キャンパス
49	小石川キャンパス
50	交通アクセス
51	食堂・レストラン
52	募金
53	入試情報
54	附属中学校・高等学校
56	基礎データ
58	数字で示す大学力

学校法人 中央大学 理事長 大村 雅彦

1954年生まれ、兵庫県出身。1977年中央大学法学部卒業。同大学院法学研究科博士前期課程修了、1979年中央大学法学部助手、1990年教授、2004年法科大学院長。2012年中央大学国際センター所長、2014年常任理事。2017年理事長。2020年再任。2021年中央大学名誉教授。2023年および2026年に理事長再任。このほか、テキサス大学ロースクール・ケンブリッジ大学・カリフォルニア大学サンフランシスコ・ロースクール等にて在外研究。JICAカンボディア法制度整備支援委員（1998年～）、文部科学省学校法人運営調査委員会委員（2002年～）、文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員（2003年～）、大学基準協会法科大学院認証評価委員会委員長（2013年～）、Vice President, International Association of Procedural Law（2015年～。現在は名誉副会長）、文部科学省私立大学等の振興に関する検討会議委員（2016年）。博士（法学）。

中央大学 学長 河合 久

1958年生まれ、東京都出身。1977年中央大学附属高等学校卒、1981年中央大学商学部卒、1983年同大学院商学研究科博士前期課程修了、他大学専任教員を経て1996年中央大学商学部助教授、2000年商学部教授（2019年3月まで）、2011年商学部長・学校法人中央大学理事（2015年10月まで）、2018年5月副学長（2019年3月まで）、2018年11月国際経営学部開設準備室長（2019年3月まで）、2019年4月国際経営学部教授（現）・学部長（2021年5月まで）・学校法人中央大学理事（現）、2021年5月学長就任。日本管理会計学会理事・常務理事、日本会計研究学会評議員、日本原価計算研究学会常任理事、中央大学附属高等学校・文部科学省「スーパー・サイエンス・ハイスクール事業」運営指導委員長、など公的社会活動を歴任。現在の学外活動は、大学コンソーシアム八王子会長、日本私立大学連盟副会長、私学研修福祉会理事長、大学基準協会理事、大学スポーツ協会（UNIVAS）理事、文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員など。専門は会計情報システム・管理会計学。